

# カピックセンター周辺の野鳥 川・湖編

## カピックセンター

ミサゴ



学名: Pandion haliaetus 全長 57cm  
 タカ目タカ科  
 見られる時期: いつでも  
 魚だけを食べるワシタカの仲間。魚を見つけると、足から水中に飛び込んで狩りをする。お腹の白色が飛んでいる時に目立つため、すぐに見つけることができる。

カピックセンターで見られる野鳥の中には、海をこえて外国から飛んでくる野鳥もたくさんいます。特に、冬に水辺で見られる野鳥の中には、世界中から飛んできていて種類もいます。見られた野鳥がどこからやってきているかを調べてみましょう。世界をもっと身近に感じることができるともかもしれません。

ヤマセミ



学名: Ceryle lugubris  
 ツブツブ目カワセミ科 全長 38cm  
 見られる時期: いつでも  
 とっても怖がりですぐに逃げてしまうため、姿を見ることはむずかしい。水中に飛び込んで、魚やカニを捕まえる。大隅湖周辺で子育てをしている。

ゴサギ



学名: Egretta garzetta 全長 61cm  
 コウノトリ目サギ科  
 見られる時期: いつでも  
 見られる時期: いつでも  
 よく「シラサギ」と呼ばれるが、実は「シラサギ」という鳥はいない。ゴサギは足先が黄色いのが特徴。他のサギとどこが違うか、調べてみよう。

カワセミ



学名: Alcedo atthis  
 ツブツブ目カワセミ科 全長 17cm  
 見られる時期: いつでも  
 「水辺の宝石」と呼ばれることがあるほどきれいな色をした鳥。つばさや背に光が当たるとコバルトブルーに輝いて見える。センターの裏の川によくいる。

## 大隅湖

オシドリ



学名: Aix galericulata  
 カモ目カモ科 全長 45cm  
 見られる時期: 秋～冬  
 中国東部や北朝鮮から渡ってくる。日本で夏を越した例もあるが、夏は涼しい場所に移動する。カラフルな色をしているのはオス。どんぐりが好物。

カイツブリ



学名: Tachybaptus ruficollis  
 カイツブリ目カイツブリ科 全長 26cm  
 見られる時期: いつでも  
 カモのように水にういて生活をしている。20秒ほどは水中に潜ることができ、泳いでいる小魚やエビを捕まえて食べる。丸みのある小さい体の特徴。

オオバン



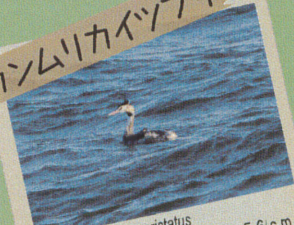
学名: Fulica atra 全長 39cm  
 ツル目イナズメ科  
 見られる時期: いつでも  
 見られる時期: いつでも  
 全身真っ黒で、ひたいからくちばしにかけてが白い。足の指にはヒレがあり、泳ぐにはあがることがめったにないが、陸上を歩く姿はお尻が大きくかわいい。

キンクロハジロ



学名: Aythya fuligula  
 カモ目カモ科 全長 40cm  
 見られる時期: 冬  
 ロシアやアインランドなどから飛んでくる。金色の目と、オスの頭の上のちよんまげのような羽が特徴。二枚貝や水生昆虫、アマモなどを好んで食べる。

カンムリカイツブリ



学名: Podiceps cristatus  
 カイツブリ目カイツブリ科 全長 56cm  
 見られる時期: 冬～春のはじめ  
 見られる時期: 冬～春のはじめ  
 イギリスやドイツなどから飛んでくる。水の上をういている事が多く、ほとんど陸地にあがらない。長い首と頭の上のボサボサ羽が特徴。水に落ちる。

インビヨドリ



学名: Monticola solitarius  
 スズメ目ツグミ科 全長 23cm  
 見られる時期: いつでも  
 オスは、青色と赤茶色のとても目立つ色をしている。メスは地味なため、同じ鳥とは思えないほど。春になると明るいうちでとてもきれいに鳴く。

アオサギ



学名: Ardea cinerea 全長 93cm  
 コウノトリ目サギ科  
 見られる時期: いつでも  
 見られる時期: いつでも  
 日本にいるサギ類の中で一番大きい。首を伸ばして立っていると、よく「ツル」に間違われる。「グア」と大きな声で鳴く。灰色の体の特徴。